



信州大学 教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報
【第36号】
発行人 吉澤修一
事務局 長野市西長野6ノ口
信州大学教育学部内
TEL・FAX(026)238-4370



学びを止めない応援団としての 同窓会をめざして

同窓会長 吉澤 修一

第17期小林亨同窓会長の後を受け、第18期同窓会長を務めさせていただきます。非力ではございますが、会員の皆様のお力添えを賜りまして、本同窓会のさらなる発展のために精一杯務めてまいりたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

さて、新型コロナウイルス感染症が私たちの生活を一変させて、早2年以上が経過しました。依然としてその終息の見通しが立ちません。追い打ちをかけるように、ウクライナの情勢も国際社会に暗い影を落としています。ともに、一日でも早く解決し、当たり前の日常が戻ってくることを願わずにはいられません。

このような厳しい社会情勢ですが、私たちは嘆いてばかりはいられません。立ち足る課題を解決し、未来への希望のもてる社会を築くために、前に進まねばなりません。信州大学教育学部の授業の中には、「ハイフレックス型授業」として、対面の授業とテレビ会議によるオンライン授業を並行して実施する取り組みも進められています。また、「オンライン教育実習」として、学校から児童生徒や授業

の様子をZoomで配信し、実習生は自宅や大学からオンライン授業を行う取り組みもなされました。ともに、このような状況下でも「学びを止めない」強い思いが伝わってまいります。

だからこそ、私たち同窓会も本会の活動を活性化させて母校の取り組みを支援してまいりたいと考えます。なかなか集うことがままならないからこそ、会報やホームページ等様々な媒体を通して情報発信、情報共有を図ってまいります。研究助成や各種学部助成で、会員や学生の活動を支援してまいります。そのためにも、組織の充実が欠かせません。長期的な展望を持ち、今できる活動のあり方を考え、会員にとって魅力的な同窓会を模索してまいります。

いつの日か必ず当たり前の日常が戻ってくるはずですが、そのときにゼロからのスタートにしないためにも、学生の皆さんも私たち自身も歩み続けることが不可欠だと思っております。同窓会は学びを止めない応援団をめざしてまいります。会員の皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

第18期同窓会役員名簿

(令和3年8月～令和5年8月)

名誉会長 宮崎樹夫 (令和3年8月～令和4年3月)

顧問 村松浩幸 (令和4年4月～)

顧問 佐野昌男 中田宣彦 三寺勝美

顧問 玉川隆雄 町田修 深澤弘二

顧問 中澤寛 土屋聖史 宮本伸一

小林亨

会長 吉澤修一 小笠原重光 宮川史枝

副会長 谷口陽治 山岸千賀子

監事 原田良介 西澤佳代 畔上一康

本部理事 中山久貴 小林比出代 茅野公穂

齊藤忠彦 酒井英樹 伊藤冬樹

茅野理恵 森下孟

地区理事 瀧直也 下伊那 牧内優幸 上伊那 有賀泰司

諏訪 宮坂均 木曾 池田信三

北安曇 中原敏 安曇野 麻田記良

松本 山口昇一 佐久 関武登

上小 山邊久史 更埴 蟹澤友司

上水内 池上昭子

須坂上高井 新井孝之

中野下高井 黒岩徳治

飯山下水内 吉澤秀

塩筑 臼井伸明

長野 篠原謙治 加藤善彦

高校 富岡修

県外 井出良子 功刀道子

和田裕

幹事 小池勲 (令和3年8月～令和4年3月)

事務局 渋谷孝信 (令和4年4月～) 宮尾弘子

岩田靖 桂本久美子 安達仁美

中村直人 新谷静香

教職員・学生、児童・生徒らの Well-being を目指す

教育学部長 村松 浩幸



本年度も学部入学生253名、大学院生30名を迎え、新年度をスタートさせることができました。新型コロナウイルスの影響はまだ続きますが、皆様の力をお借りしながら進めていこうと思います。

学部運営として、「教職員・学生、児童・生徒らの Well-being 実現」を目標にしています。Well-being は各所で言われていますが、「幸福」「健康」すなわち、本学部を構成する皆さん、さらには本同窓会をはじめ、本学部に関わる多くの皆様が「幸福」を感じ、「健康」に様々取り組んでいただける運営を進めたいと考えています。

選ばれる学部・大学院に

Well-being を目指す上で欠かせないのが、この点です。現在、本学部を問わず、全国的に教員養成学部の倍率は低下しています。魅力ある教育学部にするために、積極的に情報発信をするなど、広報の工夫・改革。さらに秋口に開始予定の、高校生の単位先取り履修の活用など積極的に進めています。また、学生らの教育に関する自主的な取り組みの予算支援をする新企画「Educational Challenge」を立ち上げ、学生らの自主性を伸ばし、チャレンジを促そうと考えています。受験生が本学部に来たいと思ってもらえる取り組みを進めます。

ワーク・ライフ・バランスが取れた職場環境実現

Well-being を目指す上で、家庭生活と仕事の調和も不可欠です。いわゆる働き方改革をさらに進めます。各業務や会議の効率化や、新設のDX委員会のDX化推進など、家庭生活と仕事が調和できるような対応を進めていきます。

学生らの教育に対する自主企画応援開始

本年度から、学生・院生らの自発的な取り組みを促し、活性化させるために、学生・院生らの教育についての自主的な企画や事業のプロジェクトに対し、予算的な支援をする。「Educational Challenge」という事業を開始しました。学生らの自由な発想と行動力で、私たちが考えていなかった取り組みや企画を形にする後押しができればと考えております。本年度はまだ試行段階ですが、軌道に乗りましたら同窓会の皆様にも是非応援いただけたらと考えております。その折にはよろしく願います。

以上、本学部、そして教職が再び魅力ある輝きを取り戻せるように、様々取り組んでいきたいと思っておりますので、これまで以上のご協力とご支援をよろしくお願いたします。

教育学部学生・長野キャンパス院生の皆さんへ
教育についての自主的な企画や事業のプロジェクトを学部が支援します！

Educational Challenge 2022

部門 以下の2部門で採択されると最大10万円を支援
①Ongoing project 部門＝既実施企画・事業の継続
②Challenge project 部門＝新規挑戦の企画・事業
支援期間 令和4年7月中旬～令和5年2月末まで
募集 5月12日(木)～6月13日(月)
問い合わせ・詳細 右下QR内の募集要項を参照

主催：教育学部
協力：公益社団法人信濃教育会

学生への案内ポスター

学部の新転任・転退職教員の紹介

【令和3年～4年度新転任教員】

- 北澤 嘉孝 先生(教職大学院) 令和4年4月1日
- 松島 恒熙 先生(社会科学教育) 令和4年4月1日
- 大畑 健二 先生(教職大学院) 令和4年4月1日

【令和3年度転退職教員】

- 駒村 哲 先生(社会科学教育) 平成7年4月1日 着任、定年退職
- 木村 容子 先生(社会科学教育) 平成30年11月1日 着任、退職
- 宮島 新 先生(教職大学院) 平成30年4月1日 着任、退職
- 永松 裕希 先生(特別支援教育) (長野県教育委員会との人事交流) 平成12年4月1日 教育学部着任
- 令和3年9月30日 教育学部退職
- 令和3年10月1日 信州大学理事着任

2022北京五輪報告

スポーツ科学教育グループ 結城 匡啓

2022年2月に北京で開催された冬季五輪に本学部の卒業生3名が日本代表として出場しました。写真は、公式スーツに身を包み、降機した北京空港で撮影したもので、右から順に、小島良太君(2017年入学、現(株)エムウェーブ所属)、小平奈緒さん(2005年入学、相澤病院所属)、一戸誠太郎君(2014年入学、ANA所属)です。

今回の五輪に出場するためには、2021年11月と12月に行われたワールドカップ1、4戦の総合ポイントでまず日本の国別の出場枠を獲得し、さらに年末の代表選考会での日本の代表枠に入らなければなりません。コロナ禍での世界一周を余儀なくされ、感染すれば日本の出場枠の確保に大きく影響するため、国をまたぐ移動ごとに繰り返しPCR検査は大きなストレスとなりました。結局、日本が獲得できた出場枠は男性7名・女性8名の合計15名と、前回五輪の20名より5名減り、加えて、ワールドカップ帰国から選考会までの2週間も自宅には戻れずホテル隔離となり、代表入りを果たすには多くの困難を克服する精神力が必要でした。

そのような状況の中、スピードスケート日本代表の1/5となる3名を信州大学教育学部の卒業生から輩出することができました。今回の五輪では目標にしていたメダル獲得には届きませんでしたが、その過程で、それぞれが精一杯ベストを尽くせたと思っています。小島君は、大学卒業の翌年に五輪の夢の舞台を経験することができ、次に向けて大きな

刺激を得ることができたようです。2度目の五輪出場となった一戸君は、3種目に出場し、見事8位に入賞を果たしました。4度目の出場で500mの連覇を狙った小平さんは、直前の怪我で成績は本意なものとなりましたが、「成し遂げることはできません。やり遂げることはできませんでした。これまでの同窓会の皆様のご声援に感謝申し上げます。ありがとうございます。」と前を向き上げます。



令和2年度信州大学教育学部同窓会一般会計歳入歳出決算書

歳入合計額 4,570,823円也
 歳出合計額 4,325,081円也
 差引残額 245,742円也 翌年度へ繰越

自 平成2年4月1日
 至 令和3年3月31日

(歳入の部)

項目	予算額	決算額	増・△減	備考
1 前年度繰越金	290,811	290,811	0	
2 会費	4,400,000	3,980,000	△420,000	199名入金
3 雑収入	500	300,012	299,512	利子・運営積立金より30万円補填
歳入合計	4,691,311	4,570,823	△120,488	

(歳出の部)

項目	予算額	決算額	増・△減	備考
1 会議費	370,000	82,172	287,828	総会・役員会等
2 事業費	1,210,000	1,153,684	56,316	会報・学部後援等
3 事務費	1,360,000	1,353,902	6,098	会報発送・印刷等
4 事務委託費	1,586,000	1,562,000	24,000	雇用費等
5 雑費	100,000	73,323	26,677	連合会会費等
6 予備費	65,311	100,000	△34,689	
歳出合計	4,691,311	4,325,081	366,230	

新しい教育学部図書館に 関するご紹介

教育学部図書館 水津 幸江

令和3年10月にリニューアルオープンした教育学部図書館では、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により一部サービスを制限した開館としていますが、多くの方にご利用いただいています。

新しくなった図書館は、学習スペース、ICT環境、アクティブラーニング環境の改善を図り、学習・研究により使いやすいスペースとなりました。館内どこからでもWiFi (ACSUネットワーク) に接続でき、貸出用ノートパソコン、iPad、デジタル教科書、電子黒板等も利用できます。ゲートを入ると新着本、企画展示コーナー、就職コーナーがあります。(写真1)

閲覧室の壁際には静かに学習できるスペースができました。各机にUSB付コンセントが設置されています。(写真2)

2階の協働学習スペースでは、図書館資料を利用しながらのグループワークができます。(写真3)

館内の段差に緩やかなスロープを新設し、雑誌架や検索用端末等も入れ替えました。(写真4、5、6)

学習・就職等の多様な支援ができる支援室を新設しました。防音仕様で、発声を伴う語学学習やWeb会議参加等にも利用できます。(写真7)

教育学部キャンパス内で一番大きな講義室もリニューアルしました。大型モニターを設置し後方からでも見やすい環境となりました。(写真8)

なお、改修にあたり教育学部同窓会からの寄付を有効活用させていただきました。



新しい第一体育館に関するご紹介

令和三年度体育館新設委員会委員長 小林 比出代

一九六五（昭和四〇）年に建設された第一体育館の老朽化に伴い、教育及び研究環境の改善と既存体育施設の集約化が模索された結果、二〇二二（令和四）年三月二五日に新しい第一体育館が完成致しました。当該委員会の主軸となってお尽力くださった教育学部管理係の安室大氏から戴きましたデータと写真をもとに、新第一体育館に関する詳細をご紹介します。

本館は、RS造（＝RC造（鉄筋コンクリート造）とS造（鉄骨造）の混構造のことで、下部躯体がRC造、上部躯体がS造のもの）で、アリーナ棟と管理棟から構成されています。アリーナ棟には、多種スポーツのコートが配された約九〇〇㎡の運動場が広がります。約一二mを有する有効天井高と、低層部分は木目、高層部分は白を基調とした壁面や建具、また、調光可能なLED照明によって、明るくかつ機能面も重視した開放的な空間になりました。床は屋内スポーツ用長尺弾性塩ビシート（「タラフレックス」）で仕上げ、競技性・耐久性・安全性を兼ね備えています。情報通信ネットワーク設備や音響機器も整い、ICT機器を効果的に用いた教



①



②



③



④

育や研究活動が可能となりました。一方、管理棟一階には、授業等の準備を行う管理室、大容量の器具庫、更衣室やトイレを配し、さらには、多目的トイレの整備やスロープ等の段差解消といったバリアフリー化も行いました。二階には、ネット環境や空調設備を有したトレーニングルームを整備、最新のトレーニングや指導が期待されます。教育学部における長年の冀望——第一体育館の新設が叶いました。本事業によって誕生したこの恵まれた施設が、これからの長きにわたり、豊かで充実した教育及び教員養成の場として大いに活用されま

- ①. 「信州大学教育学部 第一体育館」銘板
- ②. 【竣工（外部）】第一体育館 全景
- ③. 【着工前（西校舎屋上より撮影）】敷地
- ④. 【施工中（西校舎屋上より撮影）】屋根鉄骨建て方
- ⑤. 【竣工（内部）】アリーナ
- ⑥. 【竣工（内部）】トレーニングルーム



⑤



⑥

教育実践補助事業

教育実践補助事業のご案内

平成15年度より実施しています同窓会研究補助事業は、令和元年度より、名称を教育実践補助事業に改め、継続して実施しております。その概要についてお知らせします。

本事業の趣旨は、①日々の教育研究、教育実践を大切に、自らの授業改善に努めること、②専門職としての教師自らの教育研究・教育実践を磨くこと、③教育の振興・改善についての情報を共有し合うこと、に置かれています。対象者は教育学部同窓会員（同窓会費納入者）で、応募者には、一律1万円を補助しています。

応募希望者は、所定の様式「教育実践補助願及び教育実践概要」にしたがって、同窓会事務局(〒380-8544長野市西長野6-10)にお申し込みください。できるだけ当該年度の11月末日までに申し込んでください。応募規定の詳細、応募様式等の内容は、同窓会Webサイトをご覧ください。なお、当該年度の教育実践補助はおおむね10名としております。受付可能かどうかを確認しますので、お申し込みの際には必ず事務局までお問い合わせください。

道徳の授業について

長野市立川中島中学校 吉沢純太郎

道徳の授業では、生徒が自分の身に引き寄せて考えるということを意識しました。主人公の可奈子がインターネットの掲示板での誹謗中傷をきっかけに口論になりトラブルになる話を通して「いやなことを言う人とのコミュニケーションをどうしたらいい

だろうか」ということを考えました。

授業では、生徒の実態を考え、考えてほしいことに集中できるように三つの工夫をしました。

一つめは、主人公の可奈子のように、生徒の好きなものに對して悪口を言う場を設定しました。物語では、可奈子が自分の好きなサッカー選手を「スター気取り」「ずるいやつ」など悪口を書かれて言い争いになります。授業では、生徒の好きなキャラクターを「2番手の弱いやつ」や「かっこわるい」と悪口を言って本文中の可奈子の気持ちに近づけるようにしました。好きなキャラクターの悪口を言われた生徒は、「そういう所も含めて好きなんだ」と言っていました。このやりとりを聞いていた生徒の中には、「ひどい」や「むかつく」などと反応する生徒もいました。二つめは、掲示板の画面風のパワーポイントを作成しました。パワーポイントを見せることで掲示板の画面を生徒がイメージできるように物語の途中、掲示板でのやりとりの場面で使いました。実際に掲示板を見たことがある生徒が少なかったため、作成して良かったなと思えました。音読中に画面を切り替えたので、切り換えのタイミングは注意してやりました。

三つめは、付箋で多くの意見を共有できるようにしました。自分の意見を付箋に記入して班ごとにA3の紙に貼り、他の班の紙も共有して見るようにしました。生徒の中には、日常の場面や掲示板での書き込みの場面、友達との関係の事、初対面の人の事を書いているなど様々で、その中で貼られた付箋の中から自分の答えを見つける姿がみられました。生徒の学習



令和3年度教育実践補助交付者

氏名	勤務校・在籍校等	研究課題
1 西村 景子	安曇野市在住	教師とは～子どもの可能性を信じて～
2 土屋 次男	長野市立三陽中学校	地域の人・モノ・ことに学ぶキャリア教育の実践
3 伊藤 溶章	信濃町立信濃小中学校	多様な価値観をもとに議論し、認め合い、新たな価値を創造する生徒の喜び～社会科の授業と道徳の授業の連携を通して～
4 友野 修一	佐久市立望月小学校	『学ぶことが大好き』な子どもを育てるために
5 吉沢純太郎	長野市立川中島中学校	道徳の授業について
6 山口 昇一	松本市立安曇小中学校	SWOT分析による学校の強みと弱みの共有のあり方と学校現状の把握と分析
7 有賀 泰司	伊那市立春富中学校	コロナ禍に地域とつながる工夫が学び～職員と子ども達～
8 宮坂 均	岡谷市立神明小学校	子どもが主人公の学習 主体的・協働的・創造的に学ぶ子ども
9 依田 隆生	中野市立日野小学校	子どもが主体の学び合いの授業改善を目指して

カードには「相手のことを思って話す」「話題を変えて話す」など書いてあり、生徒各自の身に引き寄せて考えられていたと思います。

授業をするにあたって、先生方から様々なアドバイスをいただき、授業の工夫は先生方にも協力してもらいました。他の先生方がいつもどう授業を考えているのか、生徒を見ているのか勉強になりました。授業を通して、もつとこうすれば良かったと思う事もありましたが、この経験を活かして生徒が自分事として考えられる道徳の授業を実践したいです。

※この実践者は、令和3年度末の異動により、令和4年度は長野市立東部中学校に在職

卒業・修了生の就職状況

就職部長 徳井 厚子

教育学部の就職支援活動に對しまして、教育学部同窓会の皆様には日頃より多大なご支援を賜り、心より感謝致します。令和3年度教育学部卒業生及び大学院教育学研究科修了生の進路状況が下表のとおりになります。

学部卒業生については、進学者を除く就職率は95.28%、教員就職率は64.62%で、前年度(令和2年度)と比較すると就職率は2.33ポイント増、教員就職率は0.58ポイント減となりました。令和3年度の就職では、新型コロナウイルス感染症の大きな影響はなかったと考えられます。なお、教員となった137名のうち、正規採用者は84名で、臨時採用者は53名です。

令和5年度長野県公立学校教員採用試験の一次選考は、令和4年7月2日(土)・3日(日)に実施されます。採用数は小学校教諭225名程度、中学校教諭135名程度、養護教諭20名程度、特別支援学校55名程度、高等学校90名程度で、前年度とほぼ同じです。

就職部会では、教員採用試験に向けて、模擬集団面接の実施、模擬個人面接の実施等を計画しております。信濃教育会からは、講師向け講座を教育学部に開放して頂く等ご協力を頂いております。学部では、DX委員会の協力のもと教員採用対策グループクラスの開設の取り組みも始めております。

今後とも皆様からの忌憚のないご意見・ご要望をお寄せいただきますとともに、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年度 卒業生 就職状況

Table with columns for '就職・進学別' (Job/Study), '就 職' (Job) - '県内' (Prefecture), '県外' (Outside Prefecture), '進 学' (Study) - '大学院' (Graduate School), '専 門' (Specialized), '小 学' (Elementary), '中 学' (Middle School), '高 等' (High School), '特 別 支 援' (Special Support), '計' (Total), '備 考' (Remarks). Rows include various education courses like '現代教育コース', '野外教育コース', etc., and a '学部計' (Department Total) row.

(注) ()は臨探で内数、○は外国人留学生で内数 9月卒業含む
就職率(学部)(進学者を除く) 95.28%
教員就職率(学部)(進学者を除く) 64.62%
教員就職率(学部)(卒業生に対する) 54.80%

信州大学教育
学部同窓会

第35回通常総会(通知)

通常総会3年ぶりに開催!

第33回、34回と2年連続で中止となっていた通常総会ですが、本年度の第35回は、下記の通り実施いたします。

感染予防対策を十分にとって行います。

多数のご参集をお待ちしています。

なお、祝賀懇親会につきましては行いませんのでご了承ください。

記

日時

令和4年8月11日(木・祝)
午前9時30分～

会場

「ホテル信濃路」
(長野市中御所岡田町)

内容

- 議事
令和3年度事業報告・決算報告、令和4年度事業計画案・予算案の審議他
- 記念講演会 10時45分～12時15分
講師：花谷 泰広氏

※参加される方は、会報と同封した葉書によりお知らせください。やむを得ず総会中止の時は電話でお知らせしますので、電話番号を明記してください。

— 記念講演会 —

山と向き合う、自分と向き合う



登山家 花谷 泰広氏
(平成13年教育学部卒)

【プロフィール】

1976年、兵庫県神戸市生まれ。幼少より六甲山に登り、登山に親しむ。1995年に信州大学教育学部に入學。在学中は信州大学山岳会に所属。1996年の二十歳の時に、ネパール・ヒマラヤのラトナチュリ峰(7035m)を初登頂したほか、31日間かけて冬の南アルプスを踏査するなど、国内外で幅広く登山を実践。卒業後も足繁くヒマラヤをはじめ、ネパール、インド、中国、南米、ヨーロッパ、アラスカ等の海外登山を行う。信州大学創立六十周年記念登山では、ネパールのネムジュン峰(7140m)西壁の初登攀に

成功。2012年にはネパールのキャシャール峰(6770m)南ピラー初登攀し、その功績により2013年に、登山界のアカデミー賞といわれる第21回ピオレドール賞、第8回ピオレドールアジア賞を受賞。2015年からは若手登山家養成プロジェクト「ヒマラヤキャンプ」を開始し、次世代の登山者たちとヒマラヤ登山を行う。現在は山梨県北杜市に在住。同市のふるさと親善大使も務める。公益社団法人日本山岳ガイド協会認定山岳ガイドステージⅡ。2017年より甲斐駒ヶ岳七丈小屋の運営を開始し、山小屋の主人としても活動中。登山の発展や継承につながる幅広い活動に邁進している。

※第21回ピオレドール賞受賞の功績に対し、2014年4月、信州大学同窓会連合会より表彰されました。そして同年、「第21回ピオレドールに参加して」と題してご寄稿いただき、教育学部同窓会報第28号に掲載してありますので、ご覧ください。(事務局)

事務局より

○同窓会事務局のメールアドレス変更について

大学の新しいガイドラインにより、事務局のメールアドレスを変更することになりました。旧アドレスは本年12月以降使用ができなくなります。新しいメールアドレスは次の通りですので、よろしくお願いいたします。

k62dousou@gmail.com

○同窓会ホームページをご覧ください

お知らせや同窓会報のバックナンバー等を閲覧することができます。信州大学教育学部同窓会で検索、またはURLをご指定ください。

○教育実践補助申請受付中

教育実践補助申請を4月より受け付けています。詳細は同窓会ホームページをご覧ください。また、本号の6ページ「教育実践補助事業」も参考にしてください。昨年度の助成受付の実践テーマなどが掲載されています。

○会費の二重払いについて

同窓会費の二重払いにご注意ください。同窓会費は終身会費です。未納者には、納入のお願いをいたします。二重払いの場合にはお返ししますが、振込手数料等がかかります。全額返金はできません。

○「支部、学科・コース等の同窓会活動支援事業」について

同窓会活動を一層魅力あるものにしていくための一つとして「支部、学科・コース等の同窓会活動支援事業」を進めています。それぞれの地区ごとや、卒業学科・コース等の同窓会活動を支援することで、同窓会活動への関心を高め、会員相互の連帯を一層高めることを目的とし、その活動に対して、若干の補助をするというものです。

詳しくは、同窓会ホームページ「お知らせ」の中の令和元年9月27日の記事をご覧ください。申請書、報告書のダウンロードもできますので利用してください。

電話 026-238-4370
月・水・金 9:30~16:00
HP <http://www.shinshu-u.ac.jp/group/education-almni/>
Email k62dousou@gmail.com

事務局連絡先